

平成30年度東京都立多摩科学技術高等学校 学校経営報告

東京都立多摩科学技術高等学校長
白鳥 靖

1 平成30年度学校経営計画の実施結果（概要）

本校は、平成22年度に開校し、第七期生の卒業生を送り出すことができた。

研究活動推進および理系進学校としての体制基盤確立のために、次の4点を重点として学校経営を行った。

- (1) 希望の理系大学進学を実現させる、進学校としての教育内容と指導を充実させる。
- (2) 科学技術への関心と基礎力育成のための本校ならではの教育内容を充実させる。
- (3) 心豊かで責任感と主体性に富む生徒を育成するための指導内容を充実させる。
- (4) 本校志願者数を確保する（適正入選倍率の確保）。

今年度は、文部科学省指定スーパーサイエンスハイスクール（以下、SSH）第二期の2年目であるとともに、東京都教育委員会指定の進学指導推進校1年目であり、これらの事業を活用して教育活動の充実を図ってきた。第七期生の国公立大学合格は50名以上の目標で取り組み、結果は45名であった。既卒者9名の合格者を含めると54名が国公立大学に合格し、医学部医学科に合格した既卒者もいる。また、今年度は難関私立大学への合格者が増加した。本校の学習指導と科学技術の体験を通して成長させる強みを活かした教育が実践できたと考える。

次年度からは、東京農工大学との高大連携プログラム実現に向け、連携の充実を図るとともに本校の目標に沿った学習指導を充実させ、SSH事業等の特色ある教育活動を推進していく。

2 今年度の取組と自己評価

本年度の活動目標と主要方策別に振り返りを行うとともに、次年度取り組むべき課題を整理した。

(1) 「教育活動の目標と方策」に対する結果と次年度への反映

活動目標	本年度（H30）の主な方策	取組結果 （○：達成、△：一部達成、×：未達成）	次年度への取組課題
①学習指導の充実	(1) 学力向上に向けた組織的な学習指導（進学指導推進校） ・3年間を見通した指導目標の設定と実施	【○】 模試分析を活かした教科ごとの指導目標の設定・実施に取り組んだ。この取組を継続し学力向上を図る。	・進路指導部による模試分析の取組を強化するとともに、各教科による生徒への還元の徹底を図る。
	(2) 自宅学習促進 ・自宅（授業外）学習の実態把握および動機付け	【△】 模試の解き直しなど動機付けは出来たが、目標の2時間に達している生徒の割合は1年生、2年生ともに20%以下であり、今後の課題である。	・新1年生に対し入学当初に各教科から働きかけを行い、高校生としての学習習慣を身に付けさせる。
	(3) 教育課程及び学カスタンダードの円滑な実施	【○】 教育課程や学カスタンダードを計画どおり実施することができた。	・土曜授業の効果や学カスタンダードから課題を把握し、より効果的な教育課程の管理を行う。
	(4) 授業力の向上に向けた取組 ・大学入試問題の分析と生徒への還元 ・指導教諭の授業参観等を活用し、教科会の充実	【○】 大学入試に対応するため、1人5校以上の入試問題分析を行い生徒に還元した。 教員相互の授業参観を実施した。	・教員相互の授業参観を拡大し「主体的・対話的で深い学び」を実践するため、教科内での研修をさらに進める。

活動目標	本年度（H30）の主な方策	取組結果 （○：達成、△：一部達成、×：未達成）	次年度への取組課題
①学習指導の 充実	（5）「課題研究、卒業研究」の指導充実(SSH取組) ・進学(AO、推薦)の強みとなるテーマと指導の徹底 ・科学技術アドバイザー制度の活用	【○】 研究活動発表の公開を進めるとともにAO入試や推薦に生かすことができた。 アドバイザー制度を活用し、科学技術への興味関心を向上させることができた。	・4領域間の共通理解を促進し、科学技術科としての統一した取組が課題である。 ・アドバイザー活動の検討と内容を充実させる。
	（6）教科横断的な視点に立った教育内容の充実 ・クロスカリキュラムの開発・実践と評価（SSH取組）	【○】 教員全員が相互に授業参観を行い、科学技術科科目や普通科科目との連携を探るとともに確認した。	・クロスカリキュラムを実施するためのクロス表作成には至らなかったが、引き続き連携方法の確認と整理を行う。
	（7）科学技術に関する指導の充実（SSH取組） ・「先端技術と社会」及びカリキュラム開発の総合研究 ・第二期SSH事業の充実	【○】 研究の発表機会を増やすことができ、プレゼンテーション力向上につながった。	・次年度は中間報告の年となるため、これまでの取組を整理するとともに、後半の取組方針を決定する。
	（8）国際体験の充実(SSH取組) ・海外研修や国際体験の実施	【○】 シンガポール研修にて、英語による研究発表を実施することができた。また、海外の高校の訪問を受け、交流を実施した。	・海外研修の継続実施および成果の還元を図る。 ・英語による研究発表の実施。 ・JETを活用した英語研修の実施。
	（9）オリンピック・パラリンピック教育の推進 ・学校の特色に応じた年間指導計画の作成及び実施	【○】 国際理解・交流としてシンガポール研修及び海外高校生訪問受け入れ等を実施した。	・研究活動を通して、環境問題について考えさせるとともに、東京2020大会以降のレガシー構築を見据えた取組を行う。
	（10）英語教育推進校として4技能向上に向けた取組	【○】 JETを活用したコミュニケーション的な授業を展開しレベルアップの向上を図った。	・英語に対して苦手意識を持つ生徒が一定数いるため、苦手意識解消に向けた取組を実施する。
②進路指導の 充実	（1）進学指導校内体制の充実 ・入学～受験までの総合指導の充実 ・教科代表者会議を活用した進学指導の充実	【×】 進路部・学年を中心に組織的な指導を行った。国公立大45名の合格者を出すことができたが目標達成には至らなかった。	・教科代表者会を活用し、教科ごとの取組の共有を図る。
	（2）生徒の進路実現に向けた意識の向上(1・2年生) ・進路講演会や成功事例紹介等の活用	【○】 外部講師を招聘して進学意識を高める講演会を各学年2回実施した。3月には卒業生による合格体験談講話を実施し、学習や進路実現への意欲の向上を図った。	・合格体験講話など、進学意識を継続する取り組みを行う。 ・大学研究室訪問などを実施し、進学意欲の向上を図る。
	（3）進路指導を支援する体制の構築と活用 ・探究活動を活かすための大学研究室調査 ・担任・進路・教科の情報共有による個別指導の充実	【○】 科学技術科教員による大学研究室調査を実施した。 進学指導検討会を実施し、情報共有を図るとともに個別指導に活かした。	・進路個人カルテや進路指導を支援するシステムの活用の拡大を図る。
③生活指導の 充実	（1）「あいさつの飛び交う学校」定着と取組の推進 ・教職員による率先垂範	【△】 教職員から挨拶がないと、自らはできない生徒もいる状況である。	・あいさつの飛び交う学校を目指し、さらに定着を図っていく。 ・教員による率先垂範の徹底を図る。
	（2）「けじめのある気持ちの良い学校」全職員一貫指導 ・遅刻防止指導、身だしなみ指導	【○】 目標の1人平均3回以内を達成した。 身だしなみの指導については、教職員間の共通理解の徹底が課題である。	・教職員の入れ替わりの時期が来ており、様々なルールの共通理解を図ることが重要である。

活動目標	本年度（H30）の主な方策	取組結果 (○：達成、△：一部達成、×：未達成)	次年度への取組課題
③生活指導の充実	(3) 体罰の根絶に向けた取組の推進 ・教科会及び生活指導部を中心とした体制の構築	【○】 校内研修の充実と教員間の意識の向上により、体罰のない指導が実現している。	・継続する。
	(4) いじめに対する総合対策の実施 ・学校いじめ対策委員会を中心とした指導体制の確立	【○】 いじめのない学校づくりを目指し、体制を確立することができた。	・継続する。
	(5) 自殺対策に資する教育の推進 ・自殺総合対策大綱に基づく指導の実施	【○】 日頃の生徒観察やアンケート調査を通して指導を行うことができた。	・継続する。
	(6) 小金井工業高校との連携充実。 ・生徒指導や校内美化環境の情報共有と円滑な運営	【△】 年度当初に共有するクラス担任の打合せ等を通して、大きなトラブルもなく連携が図れている。	・2校で円滑な共有化が図れるよう打合せを行うとともに、生活指導を充実させる。また、一足制により環境が悪化しないよう校内美化を充実させる。
④特別活動、部活動の充実	(1) 外部発表機会の活用と発表内容の充実(SSH取組) ・計画的な取組の実施 ・高い目標への挑戦と指導の実施	【○】 外部発表件数の増加とともに、発表会での受賞も増加し充実している。	・「課題研究」「卒業研究」や部活動を充実させることで、研究活動を促進し、外部大会でその成果を発表させる。
	(2) 科学リテラシー振興拠点として地域連携の充実(SSH取組) ・科学の祭典や小中学校と連携	【○】 小金井市「科学の祭典」への協力、科学イベントの実施、地域へ情報発信するサイエンスミーティングでポスター発表実施。	・取り組みを継続するとともに、近隣SSH校との連携の充実を図る。
	(3) 科学技術系高校の特色を生かした学習等の実施	【○】 科学をテーマにした文化祭に昨年度とほぼ同数の3400人余りの参加者があり好評であった。また、科学施設への遠足や研修旅行を実施した。	・継続する。
	(4) 部活動や生徒活動の活発化(特別推薦の活用)	【○】 部活参加率は94%。科学研究部が中心となり、理科研究に関する研究発表を実施するなど、成果をあげることができた。	・継続する。
	(5) 生徒の体力向上の推進 ・東京都統一体力テストの実施と施策の活用	【○】 体力テストを確実に実施するとともに、結果について共有を図った。	・授業および部活動等で基礎体力の向上を図るとともに、生涯スポーツとしての意識付けを図る。
	(6) 体育祭の充実 ・生徒の力で運営する体制の構築	【△】 スムーズな進行であったが、生徒の力で運営には今一歩であった。	・部活動や委員会を活用し、生徒の力で運営する体制の強化を図る。
⑤保健活動の充実	(1) スクールカウンセラーとの連携による指導充実	【○】 カウンセラーと担任の連携が図れており、課題の把握に努めている。	・継続する。
	(2) 特別支援教育を推進する組織の構築と理解啓発	【○】 支援カードの作成やそれを基にした指導が実施できた。教育相談担当とSC、養護教諭との連携を図ることができた。	・職員の意識啓発及び共通理解を図る研修の充実を図る。

活動目標	本年度（H30）の主な方策	取組結果 （○：達成、△：一部達成、×：未達成）	次年度への取組課題
⑥募集・広報活動の充実	<p>（1）平成 29 年度取組内容を基に活動の継続と見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学訪問、生徒訪問、中学校教員対象説明会、塾対象説明会、体験イベントなどの積極実施 ・「お客様志向」の徹底 	<p>【△】</p> <p>中学校訪問 329 校、学校見学会・説明会 17 回 3204 名[昨年 12 回 3721 名]、体験入学 177 名[昨年度 241 名]、授業公開 191 名[昨年度 215 名]</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・継続する。
	<p>（2）プレゼンテーション資料などの校内共有</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全職員による共有の徹底。 ・データや資料の活用、メッセージの一貫性や整合性 	<p>【○】</p> <p>中学校訪問で持参する資料を整理し、学校紹介の統一化を図った。</p> <p>学校見学会・説明会に使うスライド内容の充実及びメッセージの一貫性を図った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・継続する。
	<p>（3）ホームページの充実(改定、更新頻度の確保)</p>	<p>【△】</p> <p>アクセス数 151825 件/年 (昨年 210358 件/年)</p> <p>更新回数 330 回/年 (昨年 372 回/年)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本校を希望する生徒や保護者の知りたい情報や在校生に必要な情報を掲載する。
⑦情報管理の徹底	<p>（1）校内個人情報管理基準の運用徹底</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「見える管理」「個人情報の意識啓発」の徹底 	<p>【○】</p> <p>規定に従って教育活動を行うとともに、研修会を通して適切に運用できた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・特に紙媒体の情報について管理を徹底する。
	<p>（1）小金井工業高校との日常連携の充実(各分掌)</p>	<p>【○】</p> <p>年度当初クラス担任打合せを行うとともに、日常連絡を密にし、情報交換を行った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・2校の教育活動が円滑に実施できるよう、分掌間でも日常連絡を密にする。
	<p>（2）業務の効率化を図り、働き方改革を推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・週60時間以上勤務する職員をゼロにする。 	<p>【△】</p> <p>週 60 時間以上勤務する職員は、年間で 4 名であった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・分掌・学年主任を中心に計画的に業務の効率化を図る。
	<p>（3）節電の取組の徹底（照明や空調の管理の徹底）</p>	<p>【○】</p> <p>計画に沿って実施できた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・電力デマンドモニターの警報を活用し、節電対策に取り組む。
	<p>（4）校外との交流による信頼される学校づくり</p>	<p>【○】</p> <p>3 回の体験入学の実施及び多摩未来祭の一般公開等を実施した。アンケート結果でもよい意見が多い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・校外との交流をさらに推進し、信頼される学校づくりを実施する。
⑧学校経営・組織体制の充実	<p>（5）経営企画室の経営参画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担当者業務情報連絡会や研修会を通して、進行管理を適切に行うとともに、円滑な教育活動に努める。 	<p>【○】</p> <p>朝礼により進行管理を適切に実施し遅滞なく教育活動を行うことができた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・経営企画室職員の入れ替わりに向け、打ち合わせを通じた情報共有の徹底を図る。

(2) 平成30年度重点目標への取組と自己評価

【1】希望の理系大学進学を実現する進学校としての教育内容と指導を充実させる。

本校のねらいである理系大学への進学指導においては、今年度は目標の50名以上を達成することができなかった。また、授業以外での学習時間についても低い傾向にあることから、全国模試を活用したり、入学当初の指導を充実させたりしながら生徒の意識を高める取組を検討する必要がある。

- ① 現役国公立大学合格者数（目標：50名以上） ⇒ 実績 45名【×：未達成】
- ② 4年制大学進学率（目標：70%以上（4年制大学現役進学者数／卒業生数））
⇒ 実績 68.1%【×：未達成】
- ③ センター試験（5・7型）受験率（目標：45%以上） ⇒ 実績 41.1%【×：未達成】
- ④ センター試験得点率80%以上（目標：5名以上） ⇒ 実績 8名【○：達成】
- ⑤ 授業以外で日常習慣としている学習時間 1・2年生共通：2時間以上
⇒ 実績 1.53時間【×：未達成】
- ⑥ 全国模試 3年次偏差値57以上（目標：40名以上）
⇒ 実績 27名【×：未達成】

【2】科学技術への関心と基礎力育成のための本校ならではの教育内容を充実させる

平成29年度からはSSH二期目に入り、体験活動の幅が広がるとともに、発表機会も増えたことで発表の質も向上し、高校化学グランドコンテストでは審査委員長賞、パテントコンテストでは文部科学省科学技術・学術政策局長賞を受賞するなど成果を挙げることができた。

- ⑦ 外部研究施設や大学などへの訪問体験回数：2回以上/年（2年生の平均）
⇒ 実績 4回【○：達成】
- ⑧ 校外発表件数 30回/年以上 ⇒ 実績 30回（315件）【○：達成】

【3】心豊かで責任感と主体性に富む生徒を育成するための指導内容を充実させる

生徒の生活態度は良好で、部活動については、文化系部活動が非常に盛んである。

礼儀正しく落ち着いた校風となり始めているが、遅刻傾向が正せない層が一定数いるので、指導法を工夫して対処する必要がある。

- ⑨ 遅刻累計 3回/年（生徒一人当たり）以下（全学年平均） ⇒ 実績 約2.48回【○：達成】
- ⑩ 部活動参加率 85%以上（1・2年生の平均） ⇒ 実績 94%【○：達成】

【4】本校志願者数の増加（適正入選倍率の確保）

推薦 1.84倍、一般 1.67倍と、いずれも昨年度を下回る倍率となってしまった。理系進学校としての教育活動や科学系大会等での生徒実績を広報活動に生かすことで、本校への理解をさらに高めるとともに、本校を希望する生徒を確保する。ほとんどの生徒が「入学してよかったと思う」「やや思う」と回答しており、学習活動とともに、部活動やSSH事業等の特色ある教育活動に満足度が高いことが伺える。

- ⑪ 生徒の満足度 全学年評価平均値 80%以上（そう思う＋やや思う）
⇒ 実績 83.8%【○：達成】
- ⑫ 入選倍率：推薦2倍以上、一般2倍以上 ⇒ 実績 推薦 1.84倍、一般：1.67倍
【×：未達成】

3 次年度以降の課題と対応策

次年度は、進学指導推進校としての取組やSSH事業の更なる充実を図っていくものとする。

	本年度の主な課題	次年度への反映方法
① 学習指導	<p>生徒の学力向上に向け、組織的に指導内容の充実を図る必要がある。</p> <p>生徒の学習意識を更に深め、習慣化させる必要がある。</p> <p>第2期SSH事業を充実させる。</p>	<p>(1) 模試分析に基づき、各教科において指導内容・方法の充実を図る。</p> <p>(2) 自習室の活用と家庭学習の促進</p> <p>(3) SSH取組項目の確実な実施 <ul style="list-style-type: none"> ・「課題研究」「卒業研究」の指導充実 ・教育効果を高める指導法（クロスカリキュラム）の工夫 ・プレゼンテーションスキル指導の充実 ・国際体験の継続 </p>
② 進路指導	<p>一期生～七期生の実績を基に、理系進学校としての進路指導を推進する必要がある。</p>	<p>(1) 進学指導校内体制の充実 入学～受験までの総合指導プログラムを実施する。</p> <p>(2) 生徒の進学に取り組む意識の向上(1,2年生)</p> <p>(3) 進路指導を支援するシステムの活用の拡大 個人別指導充実：担任・進路・教科の情報共有</p>
③ 生活指導	<p>あいさつ習慣の継続指導を図り、校風として定着させる。</p> <p>遅刻指導や身だしなみへの意識を向上させる必要がある。</p> <p>体罰の根絶に向けた取組を推進する。</p> <p>併設する小金井工業との良好な関係を維持する。</p>	<p>(1) 「あいさつの飛び交う学校」定着の取組 <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の共通理解による習慣の徹底 </p> <p>(2) 全職員一貫性ある指導の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・遅刻防止指導 ・身だしなみ指導 </p> <p>(3) 教科会及び生活指導部を中心とした体罰のない学校</p> <p>(4) 小金井工業高校との連携充実</p>
④ 特別活動	<p>生徒の科学に対する関心や意欲を高める活動機会を充実させる。</p>	<p>(1) 外部発表機会の活用(SSH取組) <ul style="list-style-type: none"> ・計画的な取組の実施 ・高い目標への挑戦と指導の充実 </p> <p>(2) 科学リテラシー振興拠点として地域連携の充実</p> <p>(3) 科学の心を育てる文化祭や特別活動等の充実</p>
⑤ 保健活動	<p>多様な生徒へのケア</p> <p>特別支援教育の推進</p>	<p>(1) 教育相談体制の充実を図るとともに、スクールカウンセラーとの連携の充実</p> <p>(2) 特別支援教育研修の実施と職員の意識啓発</p>
⑥ 募集・広報活動	<p>本校への関心や認知度を高めるために、広報活動を充実させる。</p>	<p>(1) 平成30年度取組内容を基にした活動の継続 <ul style="list-style-type: none"> ・中学教員対象見学会や塾対象説明会の充実 </p> <p>(2) プレゼンテーション資料などの校内共有徹底 <ul style="list-style-type: none"> ・説明内容の改善と教員の共通理解 ・情報の管理を一元化しデータや資料を活用 </p> <p>(3) ホームページの充実 <ul style="list-style-type: none"> ・改訂及び更新内容の充実 </p>
⑦ 学校経営・組織体制	<p>情報事故、体罰事故及びサービスの厳正を撤退させる。</p> <p>ライフ・ワークバランスの推進</p> <p>小金井工業高校との相互理解</p>	<p>(1) 情報管理、体罰及び服務規律維持については「見える管理」「啓発」の徹底を図る。</p> <p>(2) 業務の効率化（全職員による取り組み）</p> <p>(3) 小金井工業高校との連携の日常化</p>

以上